

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 32 人

② 算数 32 人

③ 理科 32 人

#### 5 留意事項

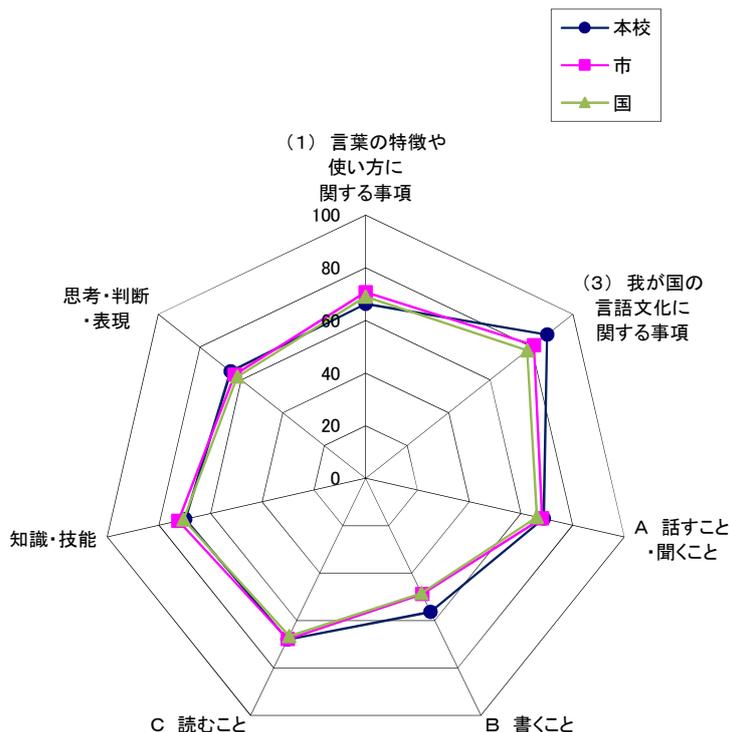
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立城山中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	66.3	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	87.5	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	68.8	68.2	66.2
	B 書くこと	56.3	48.9	48.5
	C 読むこと	68.0	67.9	66.6
観点	知識・技能	69.8	72.5	70.5
	思考・判断・表現	65.2	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

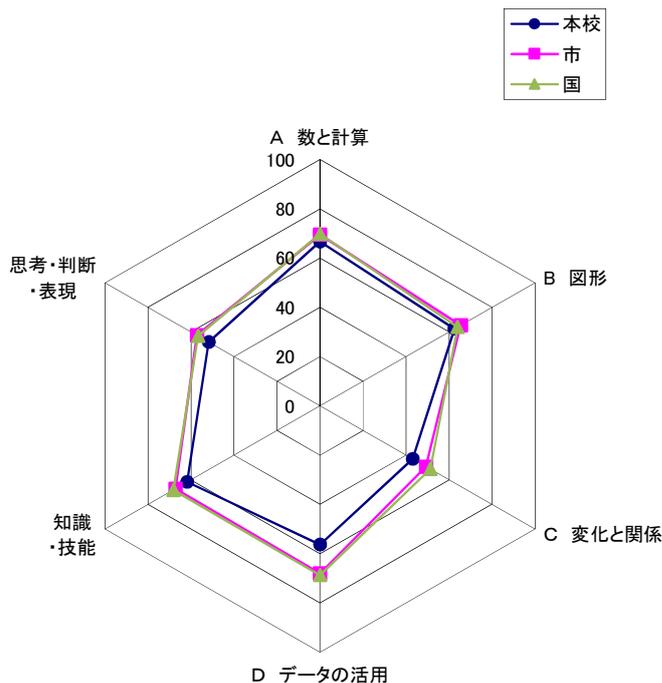
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は66.3%で、市の平均を4.4ポイント、国の平均を2.7ポイント下回った。</li> <li>○話し合いの様子を聞き取り、発言の正しい理由を考慮することができた。</li> <li>●文章の中で正しい漢字を使用する問題において課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</li> <li>・今後とも、基本的な言葉の学習や漢字の練習を行い、確実に定着することができるようにしていく。また、児童の状況に応じて、より発展的な学習に取り組めるように、個に応じた指導の充実を図る。</li> <li>・主述や修飾の関係、敬語や慣用句など学んだことの習熟が図れるよう、授業や朝の学習で振り返る場面を意図的に作っていく。</li> </ul>
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は87.5%で、市を6.4ポイント、国を9.6ポイント上回っている。</li> <li>○手紙で相手につたえる際に、相手の読みやすさを考えて書き直す問題で、正答率が約88%とよく理解できていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に分かりやすく文章を書く力が少しずつ身に付いてきている。引き続き、自分の考えを、適切な表現を用いながら文章に書くことができるように指導していきたい。</li> </ul>
A 話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は68.8%で、市を0.6ポイント、国を2.6ポイント上回った。</li> <li>○自分の考えをまとめる問題では、国と県の平均正答率を上回った。</li> <li>●平均正答率は国、県ともに上回っているものの、約53.1%と低い数値を示していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の活動の一分間スピーチや、授業中に自分の考えを発表する機会を多く設けて、自分の考えや思いを書いて発表させることに慣れさせていく。</li> <li>・引き続き、少人数での話し合いやクラス全体での意見交換などの場を意図的に設定して、目的に応じた話し合いができるように指導していきたい。</li> </ul>
B 書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は56.3%で、市を7.4ポイント、国を7.8ポイント上回った。</li> <li>○文章全体の構成を考える問題では、国、県、市ともに大きく平均正答率を上回った。</li> <li>●文章の感想や意見を書く問題で、県で2.3ポイント、国で0.2ポイントと下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の学習や、他教科での学習だけではなく、各行事の振り返りや日記指導などを通して、書くことに慣れさせていく。</li> <li>・文章を書く際には、目的に応じて書く事柄を整理させたり、意見や理由を区別して書かせたりして、より効果的な文章が書けるよう指導していきたい。</li> </ul>
C 読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は68.0%で、市を0.1ポイント、国を1.4ポイント上回った。</li> <li>○4問中3問の問題で、国及び県の平均正答率を3ポイント程度上回ることができた。</li> <li>●登場人物の相互関係について、描写をもとに考える問題が、県の平均よりも1.4ポイント、国の平均よりも2.0ポイント低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の関係性を読み取ることができるように、根拠となる文章や叙述に着目できるような授業の工夫・改善を図っていく。</li> <li>・読書活動を推進して、読む力を高められるようにする。</li> </ul>

# 宇都宮市立城山中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	66.7	69.5	69.8
	B 図形	62.5	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	43.0	49.3	51.3
	D データの活用	56.3	68.0	68.7
観点	知識・技能	61.8	67.3	68.2
	思考・判断・表現	51.8	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

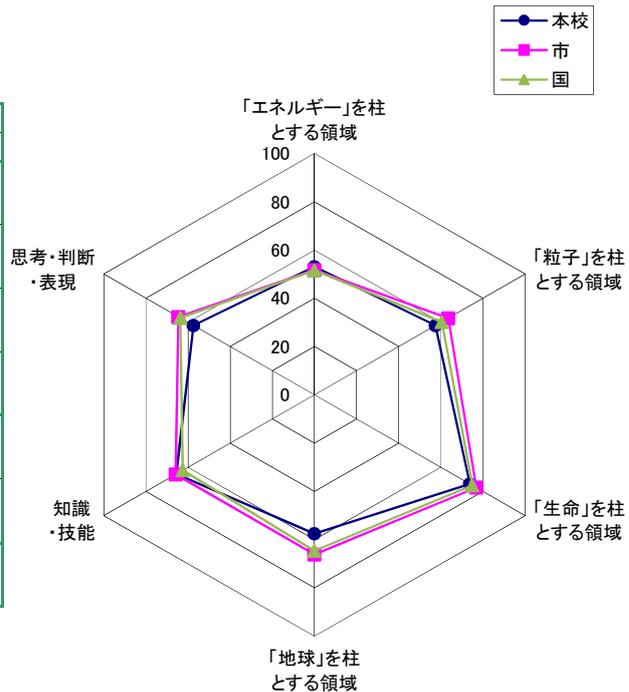
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は66.7%で、市を2.8ポイント、国を3.1ポイント下回った。</li> <li>○加法と乗法を組み合わせ、求め方を考える問題では、国を1.1ポイント、県を2.2ポイント上回った。</li> <li>●被乗数に空位のある整数の乗法を計算する問題では、県を8.4ポイント、国を8.0ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な計算が身に付いていない児童が一定数いるため、朝の学習や宿題などの機会を使って、ミニプリントやドリルなどを活用し、定期的に計算練習に取り組みさせることで計算力を高めていく。</li> <li>・問題文を読み、見直しを持ちながら考え、立式の理由を述べたり、解いたりすることが難しく感じている児童がいるので、問題文を読んで正しく題意を理解することができるように指導をしていく。</li> </ul>
B 図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は62.5%で、市を2.6ポイント、国を1.5ポイント下回っている。</li> <li>○示されたプログラムをもとに、正三角形の作図のプログラムを導き出す問題では、県と国の平均正答率を10ポイント程度上回った。</li> <li>●指定された図形を作図するプログラムを考える問題については、比較的正答率が高かったが、示されたプログラムから、どんな図形が作図されるのかについては、国、県の平均を10.7ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公式や図形の性質を再確認させる教材を活用したり、段階的に発展的な問題につながるような補充プリントを使用したりするなどし、習熟を図っていきたい。</li> <li>・図形の作図の学習では、TTをうまく活用しながら、一人一人に対応する機会を増やし、個に応じた学習を進めていく。</li> </ul>
C 変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は43.0%で、市を6.3ポイント、国を8.3ポイント下回った。</li> <li>●二つの数量が比例の関係であることを用いて、未知の数量を導き出す問題は、正答率が37.5%であった。</li> <li>●示された場面から、割合を正しく導き出す問題は、正答率が12.5%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基準量や比較量を正確に捉えることが苦手な児童が一定数いるため、定期的に復習する機会を設けていく。</li> <li>・基礎的な内容の定着を図りつつ、生活場面と関連付けて、割合の意味を深く考える場面を意図的に設定していく。また、発展的な内容にも意図的に取り組ませていくことで、さらに理解を深めていきたい。</li> </ul>
D データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は56.3%で、市を11.7ポイント、国を12.4ポイント下回った。</li> <li>○表から数量を読み取る問題では平均正答率が71.9%と、比較的高い数値を示した。</li> <li>●分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉える問題では、平均正答率が46.9%で、国、県の平均よりも17ポイント程度下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの活用は他の領域に比べて正答率が低い傾向にあり、基礎的な内容を定着させる必要がある。</li> <li>・グラフから数値や項目間の関係を正確に読み取るなどの基本的な内容を中心に、補充プリントやドリルなどを用いて習熟を図っていく。</li> <li>・データの活用については、他教科や生活場面でも活用することができるよう、様々な学習や場面などと関連付けて指導していきたい。</li> </ul>

# 宇都宮市立城山中央小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	53.1	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	57.5	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	73.8	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	57.5	66.1	64.6
観点	知識・技能	65.6	65.9	62.5
	思考・判断・表現	57.4	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○平均正答率は53.1%で、市の平均を1.4ポイント、国の平均を1.5ポイント上回った。</p> <p>○選択肢から正しい回答を選ぶ問題においては、正答率は県の平均より5ポイント上回った。</p> <p>●実験方法を見直し新たに追加した手順を書く問題においては、正答率は県の平均より6.7ポイント下回った。</p> <p>●問題に対するまとめから、その根拠実験の結果を基にして書く問題では、正答率は県の平均より11.7ポイント下回った。</p>	<p>・自分で発想した実験方法と、追加された情報を基に、実験方法を検討して、改善し、自分の考えを持つことができるように指導する。</p> <p>・実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えを持ち、その内容を記述できるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>●平均正答率57.5%で、市の平均を6ポイント、国の平均を2.9ポイント下回った。</p> <p>●水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ問題では、県の平均を9.4ポイント下回った。</p> <p>●水溶液の凍り方について、実験の結果を基にそれぞれの水溶液が凍る温度を見出し、予想を基に、問題に対するまとめを選ぶ問題では、県の平均を9.4ポイント下回った。</p>	<p>・実際に手に取りながら、メスシリンダーの正しい扱い方を指導する。</p> <p>・自分で発想した予想と、実験結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えを持つことができるようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>●平均正答率73.8%で、市の平均を3ポイント、国の平均を1.2ポイント下回った。</p> <p>○昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ問題では、県の平均を12.1ポイント上回った。</p> <p>●見出された問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ問題では、県の平均を5.1ポイント下回った。</p> <p>●自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く問題では、県の平均を6.1ポイント下回った。</p>	<p>・問題を解決するための観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えを持つことができるようにする。</p> <p>・自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えを持ち、その内容を記述できるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>●正答率は57.5%で、市の平均を8.6ポイント、国の平均を7.1ポイント下回った。</p> <p>●冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ問題では、県の平均を13.8ポイント下回った。</p> <p>●結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ問題では、県の平均を18.5%ポイント回った。</p> <p>●鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したのか書く問題では、県の平均を5.7ポイント下回った。</p>	<p>・観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことができるようにする。</p> <p>・観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えが持つことができるようにする。</p> <p>・水は水蒸気になって空気中に含まれていることを図などを使って理解できるようにする。</p>

## 宇都宮市立城山中央小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」では、全員が肯定的回答をした。また「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」には83%の児童が肯定的回答をしていることから、いじめについての日頃の指導が根付いており、いじめは許されないことだと意識して生活していると考えられる。今後も継続していじめ防止啓発などの指導を徹底していきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的回答割合は88.9%で、さらに「友達と協力するのは楽しいと思いますか」においては全員が肯定的回答をしており県の平均を5.1ポイント上回っている。学校生活の中で、全校・学年・学級で友達と協力して活動することで成功体験や達成感を得ることができている児童が多いからではないかと考えられる。

○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」において肯定的回答割合は91.7%で県の平均を大きく上回っている。「学校で、授業中に自分で調べる場面でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」でも肯定的回答割合が80.6%で、学習の際にICT機器を日常的に使う場面が多く、児童が積極的に使用していることが分かる。さらに「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」では、全員の児童が肯定的回答をしており、日頃の学習活動において効果的にICT機器を活用できていると考えられる。

●「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」では、肯定的回答割合が63.8%で県の平均を12.6ポイント下回っている。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」でも肯定的回答割合が県の平均を下回っている。児童は人前で間違えることを非常に恐れており、常に周囲の目を気にしている様子が見られる。自分が間違えた時に、周囲がどんな反応を示すかを考えすぎて自分の思いを態度に表したり発言したりすることができない。同じく人を助けることに関して、「助けたほうがいいのでは。」と思っても自分が一番に行動を起こしたら周りはどう思うかということが先にきてしまい行動に移す機会を失っている場合が多い。学校では、間違えることは決して恥じるのではないと指導し続けているが児童も頑ななため改善には時間を要する。

●家庭学習についての質問の肯定的回答は県の平均と同等なものが多く、家庭学習の習慣化は概ね図られていることがうかがえる。しかし、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問では、1時間未満と答えた割合が県の平均よりも18.4ポイント高く、家庭学習の時間が少なかった。休日に関しても同様のことがいえることから、家庭学習について、習慣化が図れているとはいえ、児童自身の学習に対しての意識が低いいため、家庭とも連携を取りながら指導していく。

●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか」の質問では、「10分より少ない」「全くしない」と回答した児童の割合は58.3%と半数を超えており、県の回答率より20ポイント高かった。タブレットなどの普及により読書離れを感じるが、今後、児童の読書に対する関心を深められるよう、本校の特色の一つである読書活動(朝の読書や家読、読書リレー等)で、児童が読書できる時間の確保や家庭への啓発に努めたい。

## 宇都宮市立城山中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善と工夫。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習のねらいや見通しをつかむことができる明確な課題の提示を行う。</li> <li>学習習慣と基礎・基本を定着させるための指導の工夫。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の設問では、86.1%の肯定割合であり、課題をつかみ、話し合いを通じて学びを深めていることがうかがえる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見を安心して表現し合える学級経営に努めるとともに、伝え合う活動を意図的に設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「居がい、やりがい、学び合いを目指した学習指導」を校内の研究課題とし、授業の工夫や話し合い活動の支援を行い、家庭学習においても一言日記を取り入れるなど書く機会を増やす工夫をする。</li> <li>朝の学習の時間を「モジュール学習」とし、基礎・基本の定着を図るために活用する。</li> <li>クロームブックを積極的に活用し、児童の興味・関心を高めるとともに、児童同士の学びを共有し、意見を交換し合う中で、課題を追究しようとする意欲を育てていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語の「情報の扱いに関する事項」で6.4ポイント、「書くこと」7.4ポイント、理科の「エネルギー」1.4ポイント市の平均正答率より高く、基礎・基本の定着がうかがえる。</li> <li>算数の「データの活用」で11.7ポイント、「変化と関係」で6.3ポイント、理科の「地球」で8.6ポイント市の平均より低く課題がある。</li> <li>「授業の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか。」の設問では、100%の肯定率であった。</li> </ul>

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>どの教科にも市の平均正答率より低い事項があり、基礎・基本の取得が十分とはいえない。家庭学習では、平日や休日の学習時間が1時間以下の短い児童が多く、学習の習慣化が十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一授業などの授業研究</li> <li>家庭学習強化週間の設置</li> <li>朝の学習の活用</li> <li>クロームブックの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習のねらいや見通しをつかむことができる明確な課題の提示とまとめ・振り返りを行う時間の確保を図った、児童一人一人が分かる授業研究を行う。</li> <li>家庭学習強化週間を年2回設定し、「決まった時間に、学年の目標学習時間家庭学習へ取り組む」ことを目指す。</li> <li>朝の学習の時間を「モジュール学習」として位置づけ、基礎・基本の定着を図るために計画的に活用していく。</li> <li>クロームブックを積極的に活用し、児童の興味・関心を高め、児童同士の学びを共有したり、話し合いを深める手立てとしたり、AIドリルを用いて基礎基本の定着を図ったりするようにする。</li> </ul>